

映画学科のコースが一部変更になります。
新コース【映像表現・理論コース】を設置します。

入ってから、考えよう！

映像表現・理論コースは、これまでの理論・評論、映像、脚本の3コースがまとまり、入学してから2年生への進級時に適性と熱意にあわせて専攻分野を選択することができます。

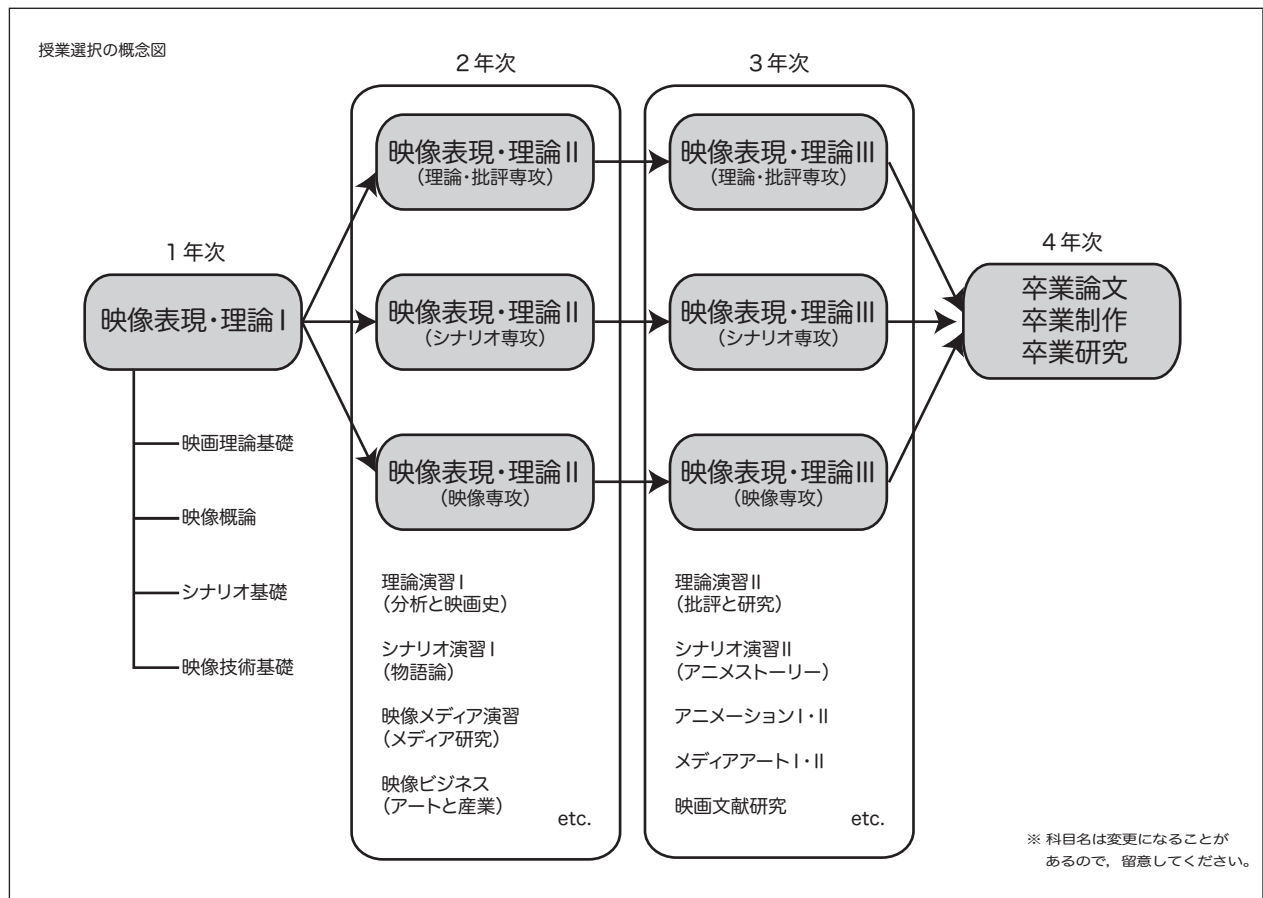
探求することは楽しい。

映画や映像のことを、学校で勉強した経験のある人は少ないと思います。それが普通です。映画が生まれてから120年にもなっていませんから。学問としては新米なんです。けれども、この120年間に、世界はとてつもなく変化をしました。そして今も映像の世界は変革を続けています。映画や映像を学ぶことは、新しい何かをつかみとることにつながるはず。映画は我々に本当に多くのことを教えてくれます。物事を探求することは楽しいことです。だからこそ、探求するものはみなさんが見つけるべきです。未来はみなさんが作っていくのです。

新コースはスタートします。

入学したら、どうなるの？

1年次は全ての学生が、映画・映像理論の基礎を、シナリオの基礎を、映像作りの基礎を、講義と実習を組み合わせながら学びます。2年次からは本人の適性と希望を考慮しながら3専攻に別れて、それまでよりも高度な専門分野の授業を受けることになります。新コースにはさまざまな研究系、実習系科目が用意されていて、基本的にそれらは専攻に縛られることなく履修できます。4年次は各自の研究・創作テーマに基づく課題に対して、個別に指導を受けながら、作品や論文を作り上げます。（下図参照）



映画学科は、次の4コースになります。

【映像表現・理論コース】 【監督コース】 【撮影・録音コース】 【演技コース】

入学試験の時には、自分の適性と希望を考えて、上のコースのいずれかを選択して受験してください。

日藝デザインが『未来』を開拓します。

(入学後、各個人の希望と適性にあわせて専門分野を選択することができます)

日藝デザインの歴史

1921年の美学科から始まり、さらには1939年にバウハウス出身の山脇巖名誉教授(1898-1987)が商工美術科としてバウハウスのシステムを範にスタートさせました。その後の名称変更、学科独立を経て多くのデザイナーを輩出してきました。その歴史あるデザイン学科が未来に先駆け、次世代のデザイナーを送り出すために平成24年度(2012年)から新たにスタートします。

こんな風に進化します。

実社会の求めるデザイナー像が多様化しています。専門性を持ちつつも従来のジャンルにとらわれない柔軟性を備えた人物が求められています。この要求に応えられる人材の育成を行うために入学時のコース別専門試験を廃止し、統一試験とします。学生は入学後、学びながら専門分野を選択する方式にします。

幅広い専門分野から選択できます。

現行のコミュニケーションデザインコース・インダストリアルデザインコース・建築デザインコースの3つのコースを統合し、デザイン学科を一つにまとめます。デザインに関わるすべてのジャンルを横断的に学習できるようになります。

そして、専門的なデザイン分野のさらなる展開とデザインの新領域を開拓していきます。

これにより、既存のデザインの専門分野で貢献できる人材ばかりではなく、これからの社会が求める分野・領域で活躍できる総合的なデザイン力を併せ持った魅力的な人材を育てます。幅広いデザインの基礎的な知識や技術を修得の後、個々の才能や適性によって様々な科目を選択できるようになり、より高度な専門分野の教育が受けられるのが特徴です。

具体的にはどうなるの？

1年次に基礎となるコミュニケーションデザインを学びながら、デザイン全般に対する理解を深めます。

2年次は希望と適性を考慮した進路カウンセリングを行い、専門分野の授業を選択することができます。(複数選択可能)最終的には将来の目標を見据えて専門分野を絞ることにより、より高い専門性と多様性を同時に身につけることができます。(下図参照)

